

登録コード	HM128800	開講年度	2026				
授業題目	病態解析診断学特別研究					担当教員	上原 剛 他
英文授業名	Research Thesis in Laboratory Medicine					副担当	岩谷 舞
単位数	10	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄				(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野初, 2025HM医学分野初, 2024HM医学分野初, 2023HM医学分野初						
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能 ⇄				病態解析に関わる情報に触れ、常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探究することができるようになる。		
(2)詳細 /Detailed information	病態解析に関わる情報に触れ、常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探究することができるようになる。						
(3)授業の概要 /Overview of course	1．研究の社会的意義，2．研究概論，3．文献の読み方，4．研究方法論，5．データ処理方法，6．論文の書き方，7．英文論文の書き方，8．機器取り扱い実習，などについて学ぶ。						
(4)授業計画 /Course plan	(上原剛) IgG4関連疾患について手術材料を用いて分子生物学的解析や免疫染色など行い、臨床病理学的な検討を行い、IgG4関連疾患の発生原因や組織障害など病態解明を行い、病態の説明が説明ができるよう指導する。 (岩谷舞) 肺疾患や婦人科疾患について手術材料を用いて分子生物学的解析や免疫染色など行い、臨床病理学的な検討を行い、各疾患の発生原因や組織障害など病態解明を行い、説明ができるよう指導する。						
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	レポート評価 (i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。						
(6)履修上の注意 ・事前事後学習 の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/ Reference work(s)	特になし						
(7)質問,相談への 対応/Questions and requests for advice	随時可						
(8)授業の形式 /Course format	実習						